

私たちに何が可能か？



本校と奥州校

創立100周年迎える県立杜陵高 地域との協働模索

本校西町に「奥州校」を設置している県立杜陵高校(三田正巨校長、生徒442人)は、今年創立100周年を迎える。学校の特性上、全校生徒が一堂に会する機会がほとんどないが、節目を祝う記念事業は全校が一丸となり実施したい考え。奥州校と本校(盛岡市上田)に通う生徒会役員生徒と教職員らは26、27日の2日間、親睦を深める交流会を奥州校などで開き、自分たちができる地域との協働について模索した。

(児玉直人、佐藤和人)

同校は1924(大正13)年、私立盛岡後間中学校として開校。43(昭和18)年に県立学校となり、48年の学制改革で現校名になっている。74年には「通信制水沢分室」を県立水沢商業高校内に設置しているが、水沢分室が移行した通信制は、水沢商高内の一室を引き続き利用している。生徒の興味や関心、高校の生徒たち

希望する進路に応じて個々に時間割を設定。通学スタイルや時間も生徒によって異なる。400人以上の生徒を有する高校だが、全日制のように全校生徒が一堂に会する場面の場面が少ない。

100周年を迎えるに当たり、本校と奥州校の各課程の生徒会役員がまずは交流し、一体感を醸成しようという。杜陵高校・生徒交流会を企画。昨年7月下旬に滝沢市内で1回目を開催し、自分自身の良さを見つめる活動を実施していた。

2回目となる今回は、100周年記念事業に向けて地域とのかかわり、協働を考える機会に位置付け、初日は生徒会役員の中から希望者14人が、西和賀町でスノーボード体験をしたほか、地域の内外で活躍するさまざまな立場の人たちの話を聞く機会を設け、視野を広げた。

27日には、県立登米崎高校(三森健校長、生徒121人)の生徒会役員5人が急流、バス路線廃止問題など、地域課題の探究活動に取り組んできた成果を生かし、地域と高校生との関わりについて一緒に考えた。

奥州校通信制の小山愛生さん(18)は「普段、地域のことになかなか目を向ける時間がなかった。2日間の短い時間だったが、これからの生活意識したい新しい考え方が得られ良かったと話していた。